

武蔵国分寺跡資料館だより

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum Newsletter

編集・発行・印刷

見る／学ぶ／訪ねる／

武蔵国分寺跡資料館

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum

【住所】 〒185-0023 東京都国分寺市西元町1-13-10
【電話】 042-323-4103 [FAX] 042-300-0091
【E-mail】 museum@city.kokubunji.tokyo.jp
【HPアドレス】
<http://www.city.kokubunji.tokyo.jp/shisetsu/1733/009819.html>

2013.4
第14号



4月14日に国分寺境内とその周辺で、第30回万葉花まつりが開催されました。当日は強風に見舞われましたが、大盛況のうちに終了しました。万葉花まつりは、「歴史・自然・人との出会い」をテーマに、市民の手作りで実施されています。

その中で武蔵国分寺跡資料館では「市内文化財のミニ写真展・遺物の手ざわり」と題して、展示ブースを設け

ました。見学者には武蔵国分寺跡等より出土した瓦と土器・石器の実物を学芸員の指導のもとに触ってもらい文化財の手ざわりを感じてもらいました。また、当日は午前と午後に分けて、史跡ガイドボランティアの方に僧寺金堂跡や七重塔跡などのガイドを行っていただきました。参加者は古代の国分寺について知識がさらに深まった様子でした。



史跡武蔵国分寺跡の万葉花まつりの様子



国分寺の楼門と展示販売の様子



第30回 万葉花まつり



古代の土器に触れる体験



史跡ガイドボランティアによる史跡ガイド風景

灰釉陶器

今号では前号に引き続き、武蔵国分寺跡周辺からも出土している灰釉陶器について、歴史や生産方法の点から、もう少し掘り下げてお話しします。

武蔵国分寺跡周辺では多数の灰釉陶器が発掘されていますが、これらは全て現在の愛知県を中心とした地域で作られ、はるばる運ばれてきたものです。中でも写真の皿と碗の生産地と考えられる愛知県の猿投窯は、日本で初めて灰釉陶器を焼いた窯業地でした。そこで今回は、実に700年以上もの間続いた猿投窯を中心に、灰釉陶器の歴史をたどります。

初期の猿投窯では須恵器が作られていました。須恵器生産の時代は、古墳時代の5世紀中頃から奈良時代の8世紀前半まで続きます。須恵器は本来無釉のやきものですが、前号でも少しご紹介した通り、須恵器にも偶然、灰釉陶器の釉薬と成分はほぼ同じ釉薬、つまり自然釉がかかることがあります。これは、やきものを焼くための燃料が薪であったためです。薪は燃えて灰になりますが、その灰が窯の中で炎に巻き上げられて須恵器に降りかかり、さらに高温で熱せられてガラス状に溶け、そのまま付着すると自然釉になるのです。

しかし須恵器は焼成時に黒い煙で燻すので黒く焼き上がり、緑色の自然釉は目立ちません。自然釉を美しく見せるためには、やきものの地の色は白い方がよいのですが、燻す作業は須恵器の強度を高める重要な工程でした。そこで猿投窯では、従来よりも高温が出せる窯を生み出します。やきものは一般に高温で焼くほど丈夫になるため、これで煙で燻す必要がなくなり、近くで採れる粘土の灰白色を生かした製品が焼けるようになりました。こうして猿投窯では、武蔵国分寺の創建より少し後の8世紀後半から、自然釉がきれいにかかるように、意図的に焼いた製品を作ります。

さらに平安時代に入った9世紀前半には、草木灰から人工的に灰釉という釉薬を調合し、水で泥状に溶いてから刷毛で塗るようになります。これで灰が降るといって偶然に頼らず、しかも自然釉よりも澄んだ淡緑色の釉薬を自在に施せるようになりました。そして同時に器の成形技術も進歩し、須恵器生産以来の伝統的な形に加えて、

やきもの生産の先進地である中国の陶磁器のデザインも取り入れ、灰釉陶器が完成したのです。猿投窯の灰釉陶器の最盛期は9世紀で、写真の皿や碗も9世紀後半の製品と見られます。これらには、重ね焼きの際にガラス化した釉薬が接着剤のように上下の器をくっつけてしまわないよう、中央に無釉の部分を円く残した工夫が見られます。

灰釉陶器の生産技術は、後に猿投窯周辺の美濃（岐阜県）や遠江（静岡県）などにも伝播します。しかし生産に必要な灰白色の粘土が採れたのは現在の東海地方一帯に限られ、高度な技術が必要なこととも相まって、灰釉陶器は大量生産体制で製作された実用品とはいえ、特権階級が使う高級品でした。

このようにもてはやされた灰釉陶器ですが、猿投窯では平安時代の11世紀末頃にその生産をやめてしまい、無釉の碗などを焼くようになります。その後、釉薬を施す施釉陶器の技法を引き継いだのは、猿投窯の一角とも重なる愛知県の瀬戸窯でした。他の生産地からも平安時代末から鎌倉時代にかけて、次々と灰釉陶器が消えていくのに対し、瀬戸窯では中世以降も施釉陶器を生産し続け、それは現代まで続いています。現在、陶磁器を“せともの”とも呼ぶのは、この猿投窯の技術を受け継いだ瀬戸という地名に由来するのです。

(学芸員 田中恵美)



灰釉陶器 皿 墨書 [平安時代]
僧寺南方地域 SI620 竪穴住居跡出土



灰釉陶器 碗 [平安時代]
僧寺北方地域 SZ2 地下式横穴墓出土

平成25年度の国分寺市文化財普及事業の予定は以下の表のとおりです。

月	日(曜日)	行 事	広報予定
4	14日(日)	万葉花まつり ふるさと文化財愛護ボランティアによる武蔵国分寺跡周辺ミニめぐり	4/1号市報
5			
6	2日(日)	●初夏の湧水源周辺散策(緑と水と公園課との共催)	5/15号市報
7	7日(日)	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座(定員20名、申込み制)(全9回)① 講座:国分寺市の歴史と文化財 1 ー旧石器・縄文時代ー	6/1号市報
	20日(土)	●夏季企画展 ー国分寺駅北口の商店街写真展ー(予定)(9月1日まで)	7/1号市報
	28日(日)	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座② 講座:国分寺市の歴史と文化財 2 ー律令国家と国分寺建立の背景ー	
8	未定	●バスで行く市外文化財めぐり「ー武蔵国分寺の瓦生産地を訪ねるー」 (定員30名、申込み制)	7/15号市報
	25日(日)	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座③ 講座:国分寺市の歴史と文化財 3 ー武蔵国分寺の概要ー	
9	1日(日)	●夏季企画展最終日	
	14日(土)	ぶんぶんウォーク(9月16日まで)	
10	1日(火)	東京文化財ウィーク2013 企画事業(11月30日まで)	10/1号市報
	6日(日)	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座④ 講座:国分寺市の歴史と文化財 4 ー武蔵国分寺跡調査成果ー	
	10日(木)	●市内文化財めぐり(定員50名、申込み制) 国指定重要文化財薬師如来坐像開帳にあわせて	9/15号市報
	12日(土) 13日(日)	国分寺サミット2013 in 津山(岡山県)	10/1号市報
	18日(金)	●おたかの道湧水園開園記念日 ●おたかの道湧水園無料公開	10/1号市報
	20日(日)	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座⑤ 講座:国分寺市の歴史と文化財 5 ー近世の国分寺市ー	
	下旬	●秋季企画展 被災瓦の展示(予定)(12月上旬まで)	10/15号市報
11	4日(月)	国分寺まつり 教育7DAYS(11月10日まで) ●おたかの道湧水園無料公開	
	9日(土)	●民俗資料室特別開館 屋外展示	
	10日(日)	●歴史講演会(○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座⑥)	
12	上旬	●秋季企画展最終日	
	8日(日)	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座⑦ 講座:ガイド実習 1 (朱雀・白虎コースの実践実習)	
1	19日(日)	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座⑧ 講座:ガイド実習 2 (青龍・玄武コースの実践実習)	
	下旬	●文化財防火デー・消防訓練 (1月26日前後にあわせ消防訓練実施)	1/15号市報
2	16日(日)	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座⑨ 講座:国分寺市の文化財保護の歴史とボランティア(認定式)	
3			

※記号説明:●→ふるさと文化財課主催・共催事業, ○→ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座, 無印→ふるさと文化財課関係あり

※内容、日程は変更することがあります。

文化財愛護ボランティア養成講座

史跡武蔵国分寺跡の史跡ガイドに携わるボランティアをしてみませんか。教育委員会では、「文化財愛護ボランティア」を養成する講座を開催します。

【コース】

○史跡ガイドボランティア

史跡武蔵国分寺跡周辺で文化財を案内解説します

応募ご希望の方は市報6/1号をご覧ください

来館者数

2009年10月18日～2013年3月末日

来館者数累計 54,475名

多くのご来館ありがとうございました

月	来館者数	開館日数
1	487	24
2	564	24
3	737	27
計	1,788	75

○来館者数
=おたかの道湧水園の入館者数

【1月～3月の学校見学】

(学年)、(人数)、中=中学生、高=高校生、大=大学生、院=大学院生

<市内>早稲田実業学校 中・高等部(高3)(5)

<市外>都立府中高等学校 [高3](7)、私立和光高等学校、[高2](22)、佼成学園中学校(中1)(15)

武蔵国分寺跡資料館の入口でもある長屋門の前には元町用水と呼ばれる湧水が流れていて、これに沿ってお鷹の道と呼ばれる小径があります。

なぜこの小径がこのような名称で呼ばれるのでしょうか。それは江戸時代、尾張徳川家がかつてこの周辺一帯で鷹狩を行っていた場所(お鷹場)に因んでいるからです。また、鷹狩が行われていた頃、鷹匠は当時の主要な街道(現在の元町通り)ではなく、北側の小径を選んで通っていたという人もいます。

昭和 47、8 年に国分寺市がこの小径をお鷹の道として遊歩道に整備しました。東西に繋がるお鷹の道は現在では西は現国分寺の門あたりまで、東は遊歩道が終わる東元町三丁目 19 番地東までの約 320mほどとされています。

右上の写真は現在のもので、観光シーズンになるとたくさんの方が散策に訪れます。右下の写真は整備される以前の同じ場所のもので、当時は人通りも多くなかったそうです。地元の方が日々の生活の中で、ちょっと隣へかける近道のような存在であったと思われます。土の道であったときの写真はあまり残っておらず、貴重なものです。

昭和 60 年には地域の人々による保全が評価され、環境省(当時の環境庁)により『お鷹の道・真姿の池湧水群』として全国名水百選に選定されたこともあり、その名称は一躍有名となったのです。



平成25年撮影 お鷹の道



昭和46年撮影 お鷹の道

武蔵国分寺跡資料館ご利用案内



交通のご案内

【電車】◎JR国分寺駅下車／徒歩約20分 ◎JR西国分寺駅下車／徒歩約15分

【バス】◎国分寺市循環バス「ぶんバス」日吉町ルート「泉町一丁目」下車／徒歩約8分
◎国分寺駅南口より「京王バス」系統番号(寺83)・(寺85)乗車「泉町一丁目」下車／徒歩約8分

■開館時間

午前9時～午後5時(入館は午後4時45分まで)

■休館日

毎週月曜日(祝日・振替休日の場合はその翌日)
年末年始(12月29日から1月3日まで)
※展示替えなどで臨時休館することがあります。

■入園料

資料館に入館するには「おたかの道湧水園」への入園料が必要になります。(入園券は史跡の駅で販売)
一般……………100円(年間パスポート1,000円)
中学生以下……無料

【入園料の減免規則があります】

- (1) 学校の教育活動で生徒(中学生を除く)、学生及び引率の教職員が入園するとき【事前(5日前まで)に減免申請書の提出が必要です。】
 - (2) 身体障害者及びその介護者が入園するとき【発券窓口の史跡の駅で身体障害者手帳等の提示が必要です。】
 - (3) その他教育長が特別の理由があると認めるとき【事前(5日前まで)に減免申請書の提出が必要です。】
- ※減免申請書は、国分寺市のホームページからダウンロードできます。



モバイルホームページQRコード